

## 試験研究成果普及情報

部門	経営	対象	普及
課題名：千葉県野菜産地における経営動向			
<p>[要約]</p> <p>県内ではキャベツやダイコンなどで作付面積等が拡大している産地もあるが、多くの産地・品目で作付面積が減少している。特に、ネギ、ニンジン、ホウレンソウの作付面積は、東葛飾地域を中心に大きく減少している。今後の農業就業人口は減少と高齢化が並進するが、東葛飾地域では高齢化はあまり進まず、就業人口が激しく減少する見込みである。</p>			
キーワード：野菜、産地、作付面積、農業就業人口			
実施機関名	主 査 農林総合研究センター・企画経営部・流通経営研究室 協力機関		
実施期間	2009年度～2010年度		

## [目的及び背景]

県内の主な野菜産地において、耕地の規模や貸借、年齢階層別労働力構成、雇用労働導入など、農業構造の変化を明らかにすることで、産地としての問題点と課題を抽出し、改善方向を検討する。データは、主として各年農業センサスの集落別・旧市区町村別集計を使用し、併せて、野菜生産出荷統計、家計調査なども用い、品目別に地域単位で経営の動向を明らかにする。

## [成果内容]

- 1 農林業センサスの旧市区町村単位の作付面積及び1戸当たり作付面積において、銚子市や野田市のキャベツは作付面積、1戸当たり作付面積双方が増加している。ネギでは作付面積、1戸当たり作付面積のいずれかが拡大している地域があるものの、多くの産地で双方が減少している。ダイコンでは八街市、銚子市など多くの産地で作付面積、1戸当たり作付面積が増加している。サトイモでは、すべての産地で作付面積、1戸当たり作付面積双方が減少している（図1、図2）。
- 2 このうち、ホウレンソウ、ネギ、ニンジンについて2000年から2005年の面積の増減を地域別に集計すると、いずれも東葛飾地域において激しく減少している（図3、4、5、6）。
- 3 家計調査（全国）において1人当たり購入量が増加しているのはキャベツ、ニンジンであり、ホウレンソウ、ダイコン、サトイモ、スイカ、キュウリ、メロンでは減少している（表1）。千葉県の出荷量は、おおむね家計の消費動向に対応しているが、ネギ、トマトでは消費は堅調と思われるのに反し、出荷量は明らかに減少している。
- 4 面積及び出荷量減少の目立つネギについて見ると、2002年以降の東京都中央卸売市場における千葉県産の入荷量は17%低下し、収穫時期別では5、6月収穫、7、8月収穫のものがどちらも3割程度有意に減少している（図7）。競合県をみると、11-4月収穫では茨城県、北海道・東北合計が、7、8月収穫では北海道・東北合計が有意に伸びている。
- 5 産地の農業就業人口の減少と高齢化の進行が多くの地域で予測されたが、すでに高齢化の進んだ地域では人口の減少よりも高齢化の進行が目立ち、東葛飾地域では他地域に比べ農業就業人口の減少が激しい見込みである（図8）。

[留意事項]

- 1 具体的改善方策を策定するためには、各品目の出荷量減少などの要因を確認すると同時に、経営類型別の経営試算を行い、経営モデルを構築することが効果的である。
- 2 経営試算には、野菜経営収支試算表のデータを利用し、線形計画法を用いることで、価格変動、機械導入などに関する比較的正確なシミュレーションを行うことができる。

[普及対象地域] 県内全域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

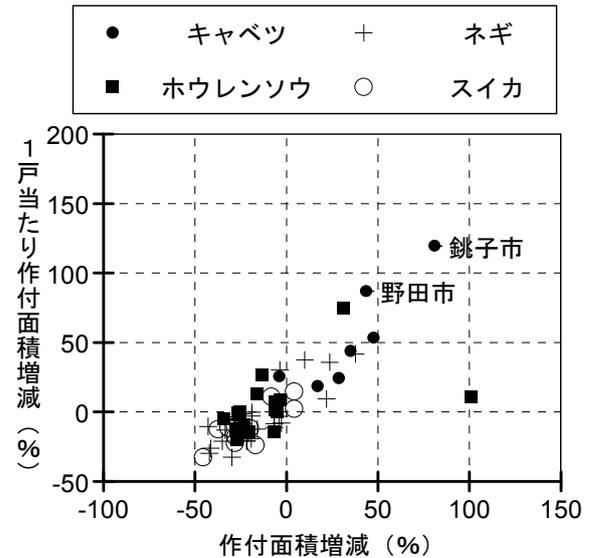
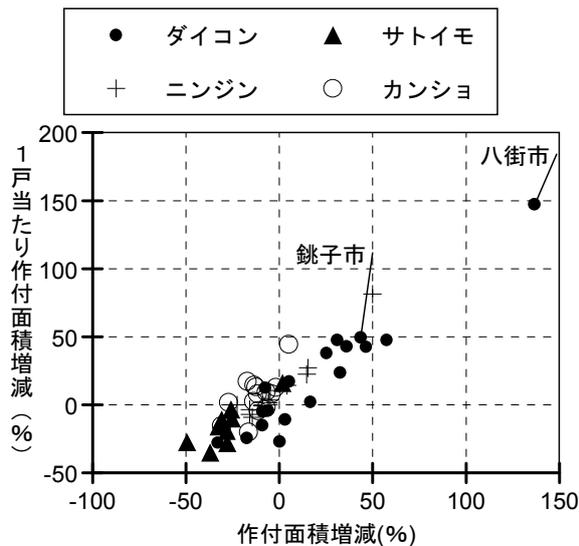


図1 産地における作付面積及び1戸当たり作付面積の増減（根菜類）

図2 産地における作付面積及び1戸当たり作付面積の増減（葉菜類及びスイカ）

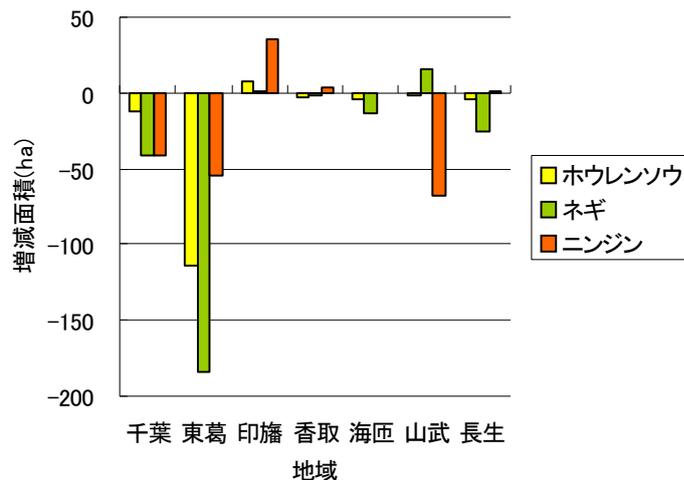


図3 ホウレンソウ、ネギ、ニンジンの地域別作付面積の増減（2000-2005年）

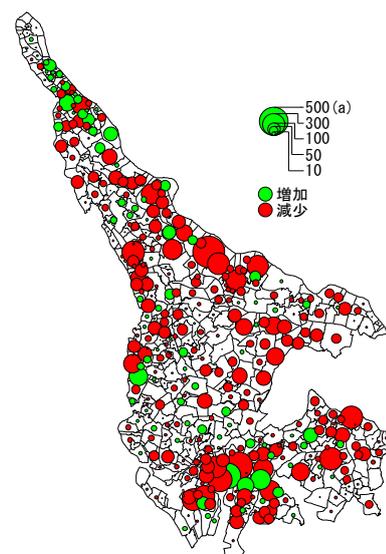


図4 東葛飾及び周辺地域におけるホウレンソウ作付面積の増減（集落別2000-2005年）

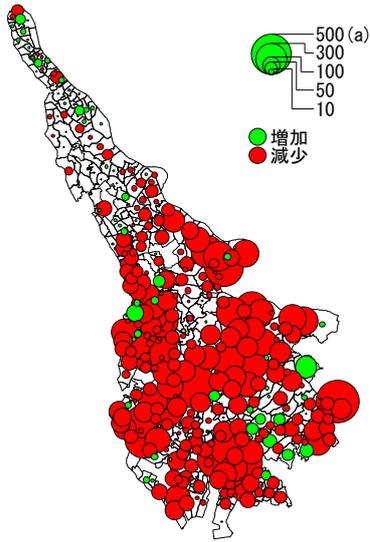


図5 東葛飾及び周辺地域におけるネギ作付面積の増減 (集落別 2000-2005年)

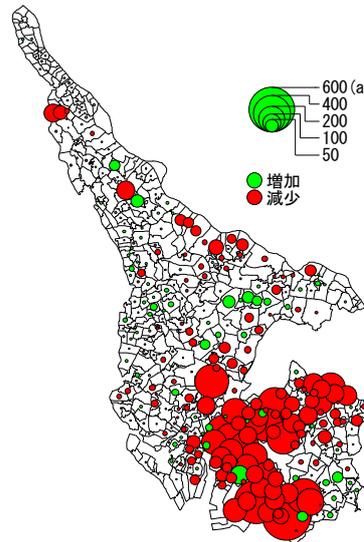


図6 東葛飾及び周辺地域におけるニンジン作付面積の増減 (集落別 2000-2005年)

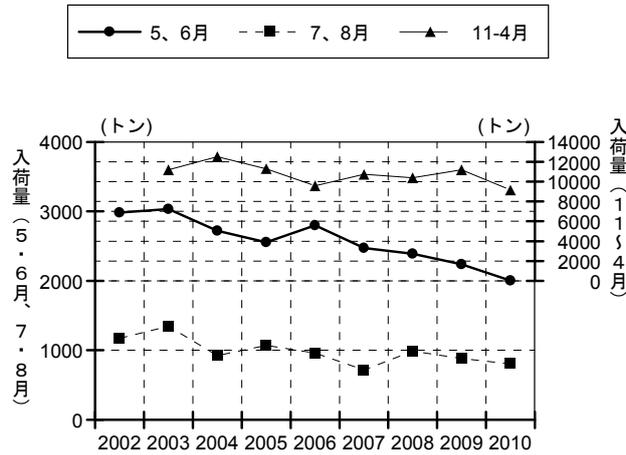


図7 千葉県産ネギ収穫時期別入荷量の推移 (東京都中央卸売市場年報)

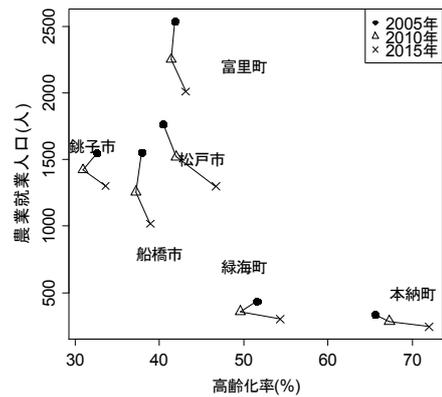


図8 旧市区町村における農業就業人口及び高齢化率の現状 (2005年) と予測値 (2010、2015年)

注1) 高齢化率は65歳以上の割合

注2) 農業就業人口の予測はコーホート・シェアトレンド法による

表1 各品目の出荷量、家計における1人当たり購入数量、実質金額のトレンド検定結果

	ネギ	キャベツ	ハウレンソウ	ダイコン	ニンジン	サトイモ	カンショ	スイカ	トマト	キュウリ	メロン
出荷量	$\beta$ -0.983 **	-0.567	-0.370	-0.473	0.198	-0.988 **	-0.759 *	-0.931 **	-0.887 **	-0.946 **	-0.711 *
家計調査数量	$\beta$ -0.060	0.717 *	-0.760 *	-0.711 *	0.637 *	-0.909 **	-0.597 **	-0.864 **	-0.550 **	-0.723 *	-0.944 **
家計調査実質金額	$\beta$ 0.037	0.853 **	-0.904 **	-0.925 **	0.376	-0.940 **	-0.620	-0.810 **	0.562	-0.789 **	-0.936 **

注1) 出荷量:カンショは作物統計の収穫量、その他は野菜生産出荷統計の出荷量。いずれも千葉県産(1997~2006年)。

注2) 家計調査:2000年~2009年の農林漁家を除く2人以上世帯における購入数量、及び消費者物価指数で実質化した購入額。

注3)  $\beta$ :年(t=1,2,...)を独立変数とし、出荷量、購入数量(額)を従属変数としたときの標準化回帰係数。正は増加、負は減少を示す

注4) \*:回帰係数が有意水準5%水準で有意 \*\*:1%水準で有意

[発表及び関連文献]

平成23年度関東東山東海農業経営研究会研究大会